

Vol.20
2014 SUMMER

TSUNAGU

[繋ぐ]

愛でる Special Issue:

未来を灯す伝統工芸 SUZUMO CHOCHIN

先どる 繊細な手技と獨創性から生まれる
濱 直史さんの「立体切り絵」

作る 夏の暑さと疲れを吹き飛ばす
「夏花風車」

未来を灯す伝統工芸 SUZUMO CHOCHIN

モダニズムと格式が同居する、優美な佇まい。

前衛アートのような抽象美をたたえながら、

和紙を通して放つ柔らかな光は、見る者に懐かしさを抱かせる。

既成概念にとらわれず、新しいものを取り入れる柔軟な発想を、

江戸時代から続く水府提灯すいふの伝統的な手法によって形にした

鈴木茂兵衛商店の「SUZUMO CHOCHIN」。

伝統工芸の新たな可能性を拓く、その魅力に迫ります。

愛でる P01

未来を灯す伝統工芸
「SUZUMO CHOCHIN」

作る P06

夏の暑さと疲れを吹き飛ばす
「夏花風車」

辿る P08

アナログの幻想的な味わい
「ピンホール・カメラ」が再ブレイク

出会う P09

アジア市場を開拓し続ける
営業マンの真骨頂とは？

先どる P11

繊細な手技と独創性から生まれる
濱直史さんの「立体切り絵」

深める P13

KPPの最新ニュースを
キャッチアップ

広げる P14

多方面への実用が進む
折り技術「ミウラ折り」

訪ねる P15

紙の魅力を体感しに出かけよう！
「ペーパーイベント・カレンダー」

150年の伝統が育んだ 未来を灯す提灯

火袋の内に灯した蠟燭の灯りによって、何百年の間、人々の暮らしを照らし続けてきた提灯。和紙を透かして、ほどよく分散される柔らかい光とそのゆらぎは神秘性をまとい、日本人の叙情に訴えかける不思議な魅力に満ちています。

中国から伝えられたとされる提灯が、日本の歴史に登場するのは、室町時代。竹かごに和紙を貼った籠状のものからはじまり、室町末期には、今日のものと同じように折りたためる提灯の原型ができていたものの、当時は貴族や武士、僧侶など、上流階級の人々だけが使用するものでした。その後、軽くて携帯に便利な簡易型へと改良が進み、蠟燭の大量生産をきっかけに庶民にまで普及。江戸・明治時代には日常生活に不可欠な照明器具として最盛期を迎え、電球や蛍光灯が普及するまで提灯は常に人々の暮らしの中心にありました。

水府提灯の発展を支えた堅牢な西ノ内紙

「水戸は、提灯の三大産地のひとつなんです」と話すのは、茨城県水戸市で提灯の製造・卸売を手がける創業150年の老舗、鈴木茂兵衛商店の鈴木隆太郎社長。「生産量が多く知名度の高い岐阜提灯のほか、八女提灯（福岡県）、そして水戸の水府提灯。いずれも和紙を量産する地域が近くにあったことがその背景にあります。水府提灯は、西ノ内という和紙の産地が近く、比較的東京に近いこと。さらには分業に基づく協業という形態が整っていたことが、発展の要因になりました」と鈴木社長は語ります。

この西ノ内和紙は、水戸よりさらに北に位置する常陸大宮市（旧・山方町）で生産されている和紙で、その特長は何よりも頑丈なこと。丈夫で水にも強く、「火事の際、燃えないように西ノ内和紙で作った大福帳を井戸に投げ込み、あとで引き上げても崩れなかった」（鈴木社長）というほど強靱なものです。また、江戸時代には徳川光圀が編纂した「大日本史」に、明治・大正時代には、衆議院議員選挙の投票用紙に指定されていたことから、その品質の高さがうかがえます。

独自の工法・構造によって 耐久性に優れた強靱さが生まれる

水府提灯の特徴は、その工法・構造にあります。和紙を貼り付けるための外形は、螺旋状に竹ひごを巻き火袋を形づくる、ゲル巻きと呼ばれる工法が一般的ですが、水府提灯は竹ひご一本一本をリングにして筒状に組み、それを糸で絡めて結んでいく独自の手法によってつくられます。「とにかく手間と時間がかかりますが、そのぶん堅固で耐久性に優れているのが水府提灯の一番の特長といえます」と鈴木社長。現在、鈴木茂兵衛商店では、水府提灯の伝統的な工法のほか、ひごを螺旋状に巻くゲル巻きも併用しているそうです。

アーティストとのコラボによって 生まれた「MICシリーズ」

現在でも、神社・仏閣用に奉納する大提灯をはじめ、盆提灯や祭り提灯など、私たちの暮らしに密接な関わりのある提灯。しかし、ライフスタイルの変化や安価な輸入品の汎用によって需要は伸び悩み、水府提灯を手がけるのは、水戸市内でもごくわずかになっているそうです。そんな中、鈴木茂兵衛商店は既存の提灯が持つ魅力を生かした、新たな商品開発に着手されます。そのきっかけとなったのは、ファッション・映像・音楽など、多方面でアートワークを展開するビジュアル・アーティスト、ミック・イタヤさんとの「再会」だったそうです。「実は、ミックとは、高校まで同じ学校に通った幼なじみなんです。しばらく会っていなかったのですが、水戸の音楽園で行われる夜梅会という茶会にうちの提灯を出すことになり、軽い気持ちで彼に声をかけたことからミックとのコラボレーションによる商品づくりがはじまったんです」と鈴木社長は語ります。



鈴木茂兵衛商店の店内に陳列された「MICシリーズ」。シンプルでありながらも、アバンギャルドなフォルムの作品ばかり。



「MICシリーズ」には、音に反応する音感センサーと、灯りの“ゆらぎ”を表現するユニットが内蔵されている。



MICシリーズのひとつ「ICHI-GO」。提灯を吊り下げるオリジナル・スタンドも自社で開発。



提灯の伸縮性を利用したホースのようなフォルム。アート作品としても高い評価を得ている。



日本酒、ビール、ワインなどのボトルをリアルに再現した瓶型の提灯。インテリアや贈答品としても人気。



東京スカイツリーで開催された「文芸提灯展 言ノ葉の灯」の模様。MICシリーズの提灯に書かれた一語一語が幻想的に浮かび上がる。

作る

紙と触れ合い、モノを作る

「PAPERCRAFT on the DESK」

夏の暑さと疲れを吹き飛ばす 「夏花風車」

夏の焦げつような強い陽射しや熱風に、身も心も疲れ気味。そんなあなたに一股の清涼剤となる一輪の花をプレゼント。口をすぼめてひと吹きすれば、デスクに美しい夏の花が咲きます。夏バテを感じたら、風風(フーフー)&車車(クルクル)回して、リフレッシュしてくださいね。

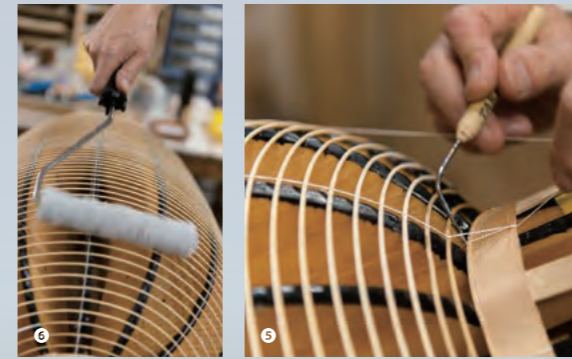
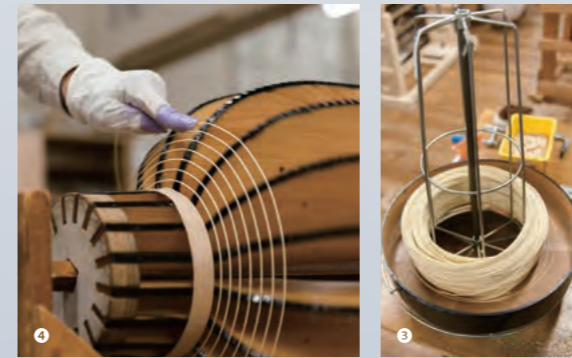
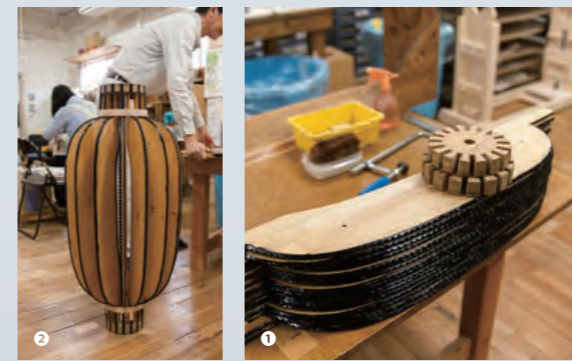
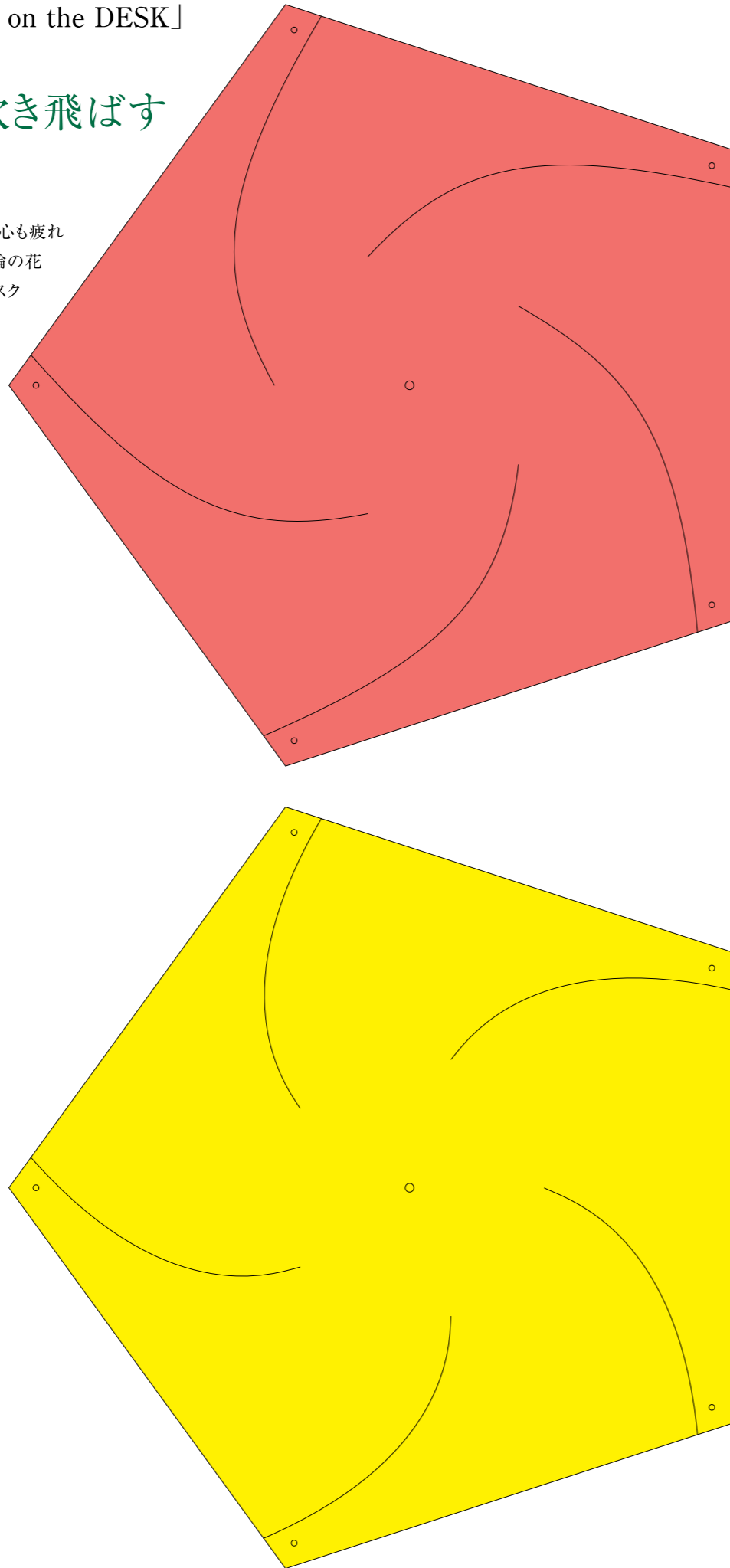
切りとり線 _____

穴空け(中心) ○ 穴空け(外側) ○

【用意するもの】

- ・ストロー&クリップ(またはわり箸&爪楊枝)
- ・セロテープ
- ・ハサミ(またはカッター)
- ・キリ(またはボールペンなど先端の尖ったもの)

▶ 各パーツはこちらのページから切り取って使用してください。
◀ 作り方は裏面をご参照ください。



水府提灯の製造工程

- ① 火袋の外形をつくる平たい木型、上下に取り付けるアミダ(丸い歯止め)を準備する。
- ② 16枚の木型をアミダにはめ込み組み立て、ひごを巻きつける火袋の型が完成。
- ③ この商品は、PET樹脂製のひごを使用。このPET樹脂はペットボトルなどにも使用されるもので、炭素・酸素・水素の三元素からできているため、「燃やしても有毒ガスの発生を抑制でき、環境に優しい」との理由から採用しているとか。和紙との接着性を高めるため、PET樹脂に和紙を巻いたものをひごとして使用する。
- ④ 組み立てた型を回しながら、型に掘られている溝に合わせて、ひごをかけていく。
- ⑤ 型にかけたひごに、木綿の糸を1本ずつ巻き付けるようにして固定。上下を返して同じ工程を繰り返す。
- ⑥ 固定したひごに、刷毛やローラーを使って糊をまんべんなく均等につける。その後、和紙を貼りやすくするために、水分を含ませ柔らかくする。
- ⑦ 糊をつけたひごに、型に合わせて断裁しておいた和紙を置き、手でなでるようにして貼っていく。また、余分な部分をカットしながら8枚の和紙を貼り付ける。
- ⑧ すべての和紙を貼り終わったらアミダを外し、上部の穴から木型を抜き取る。この後、天日に干し乾かした後、ヘラを使ってひと目ごとに畳み込みながら、仕上がり具合を確認。最後に弓張り、吊り下げなど提灯の用途に合わせた装飾を取り付けて完成。

提灯の固定概念を覆す、独創的なデザイン

ミック・イタヤさんが描きあげたデザイン画は、斬新なものばかり。「松」や「雲」といった自然界にあるものをモチーフにしたデザインを具現化するために、型の作成やひごの巻き方など、試行錯誤の日々が続いたそうです。「まずは覚めることが重要です。提灯は覚めるからこそ提灯であり、それを外してしまうとただのオブジェになってしまうから。そのうえで、提灯は型を作って和紙を貼り、最後に型を抜かなければなりません。そこが最も苦労する点なのですが、彼は子どもの頃、よくうちで提灯づくりを見ていたので、基本的なつくり方をわかっているんです。いわば確信犯のように、何とかカタチにできるデザインを上げてくるんですよ」と鈴木社長は笑顔で話します。

その後、二人の共同制作によって生まれた新しい提灯は、最新技術を採用し入れることでさらなる進化を遂げます。光源として今までの蠟燭や電球の代わりにLED照明を採用することで低消費・長寿命を実現。さらには音によって点灯・消灯ができる音感センサーや、灯りのゆらぎを表現するユニットを底部に取り付けることで、現代の暮らしや幅広い用途

途に対応する、高機能で実用性の高いアートプロダクトを創り上げました。このMICシリーズは、2012年度グッドデザイン賞受賞をはじめ、国内外から高い評価を受けています。「MICシリーズは、新しい技術やアイデアを取り入れた、ひとつの集大成と言えませんが、まだ完成したとは言えません。今後も新作のデザインだけでなく、時代に対応した提灯を生み出していきたいと思っています」(鈴木社長)。

伝統と革新の繰り返しが新しい未来をつくる

水府提灯の伝統的な技術をベースに、多方面からのアイデアを柔軟に採り入れることで新たな領域を開拓する鈴木茂兵衛商店。「未来はまだ誰も見たことがない」。これはミックの言葉なんですけど、未来を予測することはできても、実際に見ることができる人はどこにもいませんよね。提灯も同様に、これからどう変化するか誰にもわかりませんが、裏を返せば限りない可能性があるとも言えるわけです」という鈴木社長。まだ見ぬ未来に向けて、鈴木茂兵衛商店の伝統と革新が、これからも人々の心に明かりを灯し続けていくでしょう。



鈴木隆太郎 さん

慶応元年(1865年)に創業した水府提灯の老舗、(株)鈴木茂兵衛商店の代表取締役社長。七代目にあたる当主であり、「MICシリーズ」をはじめとする現代に合った提灯のプロデュースを手がける。



鈴木茂兵衛商店

住所:茨城県水戸市袴塚1丁目7番5号
電話:029(221)3966

<http://www.suzumo.com/>

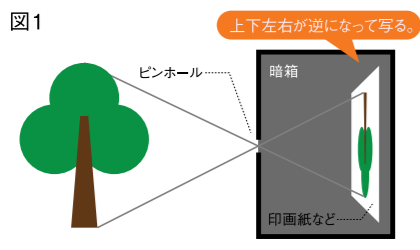


今回のテーマ

ピンホールカメラ

子どものころのワクワク感を呼び起こす、最もシンプルなカメラ「ピンホールカメラ」が人気。

ピンホールカメラには、子どもの頃に感じた不思議を解くワクワク感、試行錯誤の末にお気に入りの一枚が撮れた時の達成感と喜びが詰まっています。この夏、大人の自由研究として、あなたも試してみませんか？



「クロイサンゴ(P-SHARAN STD-35e)」

発売：(株)シャラン <http://www.sha-ran.co.jp/>

35mmフィルムを使用する紙製組み立て式ピンホールカメラキット。説明書に沿って簡単に組み立てることができる。ピンホールからフィルム面まで距離が短いので広角撮影も可能。

ラジオ、アリの巣観察セット、鉱石標本。小学生の頃、学習雑誌の教材付録に夢中になったという方もいらっしゃるでしょう。なかでも特に人気だったのが、モノクロ写真を自分で現像・プリントできる「ピンホールカメラ」です。当時、ほとんどの小学生にとって初めてのカメラ体験であり、科学の不思議な世界に対する興味とともに、写真を撮る楽しさを教えてくれるものでした。このアナログなカメラが、ミラーレスなどデジタル全盛の時代に、密かなブームとなっているそうです。

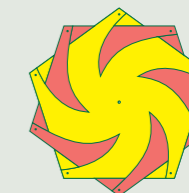
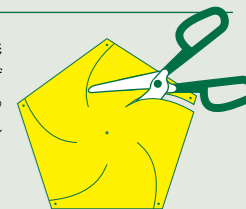
ピンホールカメラの原理は、針先のような小さい穴（ピンホール）を使って光を通し、一定距離の先にあるフィルムや印画紙といった感光材の上に像を映し出すというものです。一般的なカメラと違ってレンズがなく、光を集中することができないため、ピントのぼけた柔らかく幻想的な写真に仕上がることが特徴です。

アマチュアカメラマンやアート志向の女性を中心に、その魅力が見直されつつあるピンホールカメラ。もちろん身近にある空き箱や空き缶でもつくれますが、便利な組み立てキットも販売されています。そのひとつ、紙製の組み立て式ピンホールカメラ「クロイサンゴ」を発売する、(株)シャランの代表・大橋さんにお話をうかがいました。「このカメラは、東京工芸大学の先生から依頼を受けたのがきっかけでつくりはじめました。その後、同大学が近隣の小学生を集めた写真教室を開くようになり、そこで印画紙カメラの面白さに触れ、その感覚が忘れられず、同大学に入学し写真を学ぶことになった、という子もいたそうです」とのこと。

夏の暑さと疲れを吹き飛ばす「夏花風車」

作り方

1 2枚の五角形を切り取り、5本ずつある曲線に沿って切り込みを入れます。

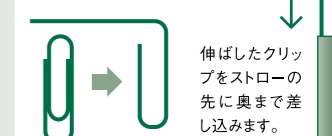


2 すべての白い丸印に穴を明け、図と同じように重ねます。このとき、図と向きを逆にするとうまの配色が変わり、逆回転になります。

3 支柱になる部分と風車の軸になる部分をつくります。

■ストロー&クリップを使用した場合

クリップの内側をまっすぐに伸ばします。

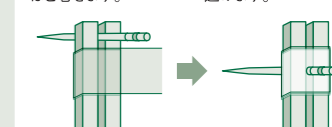


伸ばしたクリップをストローの先に奥まで差し込みます。

※ストローとクリップはサイズの合うものを選んでください。

■わり箸&爪楊枝を使用した場合

わり箸の先に爪楊枝を挟み、そのすぐ下をセロテープで3~5回ほど巻きます。



しっかり巻いたら爪楊枝を抜き、セロテープの中心に奥まで刺し込みます。

※紙に空ける穴は若干大きめに空けておきます。

4 重ねた紙の中心に、3で作った軸の部分の裏側から刺します(クリップまたは爪楊枝の先端が表になる)。



5 軸の先端に、穴の開いた5つの羽を覆いかぶせるように時計回りに刺します。



すべての穴を刺し終え、セロテープで軸の先端を留めます。

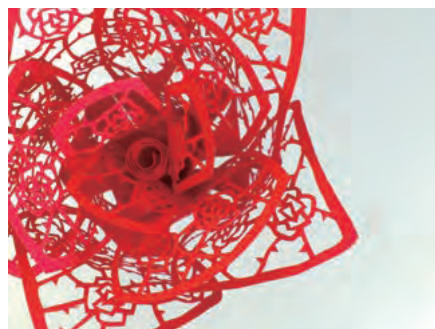
できあがり!



「黒バラの鶴」
濱さんがつくったはじめての立体切り絵作品。
折り鶴全体にバラの模様を施されている。



「四葉のクローバー」
クローバーの葉に水面にできる水の文様をあしらった、
瑞々しさが際立つ作品。



「Redrose」
バラの花びらに、バラの文様をあしらった作品。
実物は10本のバラが花束になっている。



「蓮」
蓮の葉に、トンボの羽(黒色)、蝶の羽(白色)をデザイン。
中央部分がライトで光る構造。



カラートレーシングペーパーを使用。3つの
花がすべて1枚の紙でつながっている。「人
と人とのつながり」を表現した作品。

「すずらん」

はじめまして。

ありがとう。

元気でね。

すきだよ。

すべては見えない糸で
つながっている。

私達はあたたかい糸を
大切に日々を生きている。



折り鶴に、日本の伝統的な梅の文様を施した
作品。長生きで、縁起のよいとされる鶴と、
古来より日本人が愛する梅をミックス。

「鶴 ～梅～」

千年前にも
どこかで会った事があるような

とても なつかしい思い

目を閉じても 戻れないけど

記憶を呼び覚ましても
思い出せないけど

きっと どこかで 遠い昔に

約束してたね 私たち

0.5ミリ幅の切り絵から生まれる 繊細で美しい3Dアート

紙をカッターナイフなどで切り抜き、さまざまなカタチを表現する“切り絵”。1枚の黒い紙を用い、白と黒のコントラストによって表現するものや、折り畳んだ紙にカットを施し、開くと絵柄が現れるもの、さらには紙を何層にも重ねて彫る立体的な作品や、切り絵を特殊なカラーフィルムによって彩色し、光を透過して楽しむものまで、その技法は実に多彩。鋭い刃によって生まれるラインには独特の味わいがあります。

世界中のファンを魅了する切り絵ですが、他とは一線を画すものとして注目を集めているのが、濱 直史さんの『立体切り絵』です。その精微かつ繊細な技術で表現される、透明感のある世界観は、テレビ出演をきっかけに広く知られることになり、今やアートシーンからも熱い視線が注がれています。

——“立体切り絵”をはじめたきっかけは？

「本格的に創作をはじめたのは2011年の終わり頃。それまでは音楽活動をしていました。そんなときにたまたま切り絵を見る機会があり、もともと工作やデザインに興味を持っていたこともあって切り絵をはじめたんです。当初はファンタジーの世界を平面上で表現する切り絵作品をつくっていましたが、まだ誰も見たことのない表現を追求するなかで、平面での表現に限界を感じるようになりました。そこから、もっと面白い表現はできないかと考え続けて辿り着いたのが、この立体切り絵なんです」

——どのような工程でつくるのですか？

「僕の作品のつくり方には2種類あって、ひとつは平面上の紙に切り絵を施して、折り紙のように組み立てる“立体切り絵”。もうひとつは“曲面立体切り絵”と呼んでいるもので、発泡スチロールを削ってつくった型の上に紙を貼り付け、その紙に切り絵をしていく方法があります」

——作品に使う素材にはどのようなものが？

「曲面立体切り絵では、紙の接合や扱い易さの面で和紙が適材だと思っています。立体切り絵では、作品によって紙を変えるようにしていて、上質紙や画用紙、プラスチック樹脂を含んだカラートレーシングペーパーを使った作品もあります」

東京ビッグサイトで行われたアートイベント「デザインフェスタvol.39」(5月17日・18日)に出展した、濱さんのブース。多くの観覧者がその繊細な作品を食いつくすように見つめ、開幕まで盛況が続いていた。



rieさん(創作詩) 濱 直史さん(立体切り絵)

はまなおふみ○1981年生まれ、長野県在住。2011年より切り絵を始め、幻想的かつ空想的な世界観を平面上で表現した作品を制作。その後、切り絵を立体化する新しい表現技法を確立し、作品が放つ繊細で美しい世界観は多くの人々を魅了。数多くのテレビ番組で取り上げられたことで一躍脚光を浴びる。作品から受けるインスピレーションによって生まれる創作詩は、妻・rieさんによるもの。
[WEB] <http://naofumihama.com/>

——作品づくりの技術は、どこで学んだのですか？

「すべて独学なんです。曲面立体切り絵でいうと、切り絵が完成した後、中の型を抜き取らなければなりません。発泡スチロールを型に使い、5ミリ四方に切り刻んで取り出す方法にたどり着くまで、1年半ほどかかりました。何かの手法を参考にすることはあっても、必ずアレンジするようにしています」

——ひとつの作品をつくる所要時間は？

「作品にもよりますが、最初につくった『黒バラの鶴』は、装飾が細かったこともあって約3週間かかりました」

——作品に言葉をつけるアイデアはどこから？

「切り絵をはじめて半年ほどで個展を開くことになったんですけど、その頃から作品と写真パネルを合わせて展示するイメージがありました。その写真に、作品に合った言葉を付けたら、僕たちの思いがより深く伝わるんじゃないかと思ったんです。そこで妻(rieさん)をお願いしたんですけど、想像以上の言葉が生まれて。ある意味驚きでした」

——作品を売ってほしいというオファーもあるのでは？

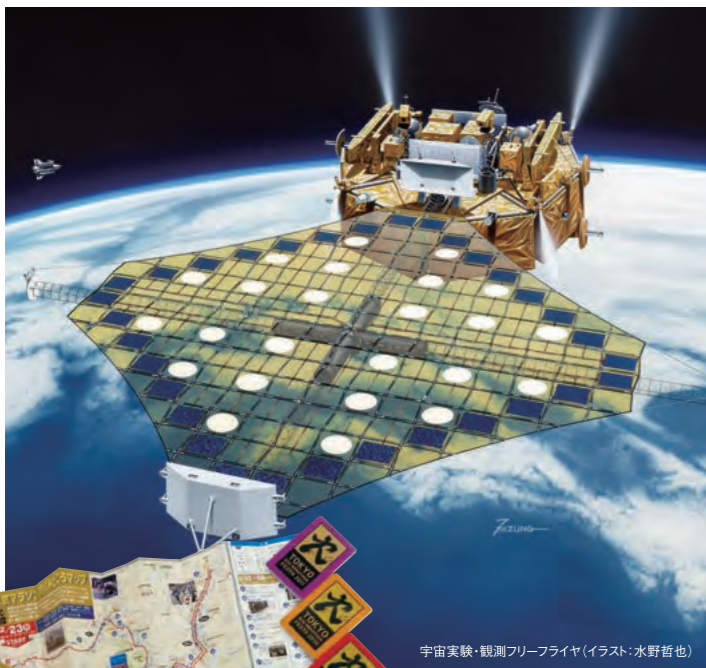
「多くの方から作品を売ってほしいというお話をいただくのですが、すべてが1点ものなのでお断りしています。一度だけオークション形式のテレビ番組に作品を出品しましたが、それを最初で最後にしようかと思っています」

——今後の抱負は？

「まずは、いろいろな場所で個展を開くこと。実際に作品を見てくれた方が、何かを感じてもらえたらうれしいですね。僕の作品は日本の“和”をテーマにしたものが多いので、日本文化の素晴らしさを、自分の作品を通して海外の方に伝えられたらいいな、と思っています」

この5月、日本人初の国際宇宙ステーション（ISS）コマンドー（司令官）をつとめた宇宙飛行士・若田光一さんが無事に帰還したのを皮切りに、H2Aロケットや気象衛星「ひまわり8号」、小惑星探査機「はやぶさ2」の後継機打ち上げなど、2014年は日本発信の宇宙関連ニュースが目白押しです。そんな中、日本独自の伝統である折り紙の技術が宇宙開発に活かされていることをご存知でしょうか。

それが、東京大学名誉教授・文部科学省宇宙科学研究所名誉教授である三浦公亮氏が発明した「ミウラ折り」。宇宙の建築家として数々の人工衛星・惑星の開発設計に携わってきた氏の実績として名高いミウラ折りは、軽量化と強度向上というテーマに向き合った結果、折り紙にヒントを得て生まれたもの。四角い平面の対角線の端の2点を持ち押し引いたりするだけで、簡単に折り畳んだり広げたりできる技術。小さく畳んで運びつつ即座に展開できることから、1995年3月に打ち上げられた「宇宙実験・観測フリーフライヤ（SFU）」で太陽光パネルの開閉実験に採用され、見事に成功を果たしました。ちなみにこのSFU、1995年に日本のH2ロケットで打ち上げられて衛星軌道に乗ったのち、10カ月後にスペースシャトルに搭乗した若田光一さんの手で回収されました。回収されたSFUは、いまも東京・上野の国立科学博物館に常設展示されています。



宇宙実験・観測フリーフライヤ(イラスト:水野哲也)

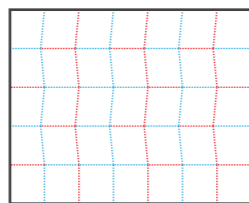
ミウラ折りを用いた太陽光パネル。再び畳むことができるのが画期的。

携帯用の地図やガイドブック、ランプシェードとしても製品化されている。
miura-ori®

取材協力:ミウラオリラボ <http://www.miuraori.biz/>

宇宙開発に活かされる 日本が誇る折り紙技術「ミウラ折り」

また、ミウラ折りは私たちのごく身近なところでも目にすることが出来ます。例えば、ハンデサイズの地図やパンフレット、ランブレードなど。さらにコーヒーやチューハイなど飲料のアルミ缶にも使われています。強度を保ちながらより薄い原材料を使用することで、コストダウンにもつながっているのだそう。特徴的なフォルムを持つ日本発の折り紙技術は、じつにさまざまなシーンで活躍しているのです。



緩い角度のジグザグの折り目がついており、対角線の部分を押し引きするだけで簡単に展開・収納ができる。

今夏には「折り紙の国際会議」が東京で開催 「第6回 折り紙の科学・数学・教育国際会議」

三浦氏が議長をつとめる国際会議が、2014年8月10～13日に東京大学で開催されます。造形作品をはじめ、エアバッグの量み方や血管バイパスを折り紙の構造を使って広げる理論など、世界から集まった170以上の論文から選ばれたものが発表されるのだとか。折り紙への注目度、国際的です。

http://www.origami.gr.jp/6osme/6osme_1st_circular_jp.pdf

編集後記

本社の屋上で育ったコウゾを原材料とした、KPPオリジナル和紙が完成しました。今号の紙面にも掲載していますが、和紙の制作には寒い時期にコウゾを伐採し、寒冷期に漉かれた寒漉きと呼ばれる紙がよいとされています。当社は2024年に100周年を迎えます。これからもKPP屋上産の和紙を制作し、100周年に向けた使用方法を検討していきたいと思っています。読者の皆さんからご提案がありましたら、CSR・広報課までご連絡ください。
アイデア募集!(J・S)

4月後半に「BtoB広告賞」入賞という嬉しいニュースが飛び込んできました。私は入社以来、広報誌制作に携わっており、今年で6年目。「TSUNAGU」とともに歩んできたと言っても過言ではありません。制作しているなかでいろいろと迷うこともありますが、受賞を自信に換えて、今後も精いっぱい取り組んでまいります。次号は、創立90周年記念の特別号を、増ページでお届けする予定となっています。どうぞお楽しみに。(M・T)

訂正・お詫び

vol.18(2014年1月発行号)において、本誌印刷に使用したインキの表記に誤りがありましたので、ここに訂正してお詫び申し上げます。

最下段・ロゴ内表記
誤 「広演色インキ」
↓
正 「高演色インキ」

※なお、「広演色インキ」は、東洋インキSCホールディングス株式会社の登録商標です。

本社屋上産のコウゾを使った 特製和紙が完成

東京本社屋上は、2010年の緑化施工以来、屋上庭園として活用されています。庭園では、オレンジ、ブルーベリー、エゴノキなど、さまざまな植物を栽培しています。この度、そのなかのコウゾを原料とする和紙づくりを、オランダ人紙作家、ロギール・アウテンボーガルド氏に依頼し、7枚の和紙が完成しました。ロギール氏はオランダ在住時に和紙と出会い来日し、その魅力に触れるなかで、原料であるコウゾ、ミヅマタに強い関心を抱くようになりました。現在は高知県に工房を構え、和紙づくりと民宿の経営を営む一方、高知工科大学の客員教授として和紙原料の研究に取り組んでいます。



本社屋上で栽培しているコウゾ

今回完成した7枚の和紙は、滑らかな手触りででありながら、植物繊維がしっかりと浮き出た、趣のあるものに仕上がりました。今後この和紙は、本社屋上産の和紙として、CSR活動やブランディングに活用していく予定です。

また屋上の菜園スペースでは、有志社員によって結成された園芸部が野菜や果物を栽培。今春はイチゴを収穫し、ジャムにして試食会を行いました。本社屋上は、植物の栽培を通して、社員のコミュニケーション促進、憩いのひとときに利用されています。



薄く漉きムラのない、ロギール氏制作の和紙



屋上菜園で収穫したイチゴのジャム



コウゾ伐採の様子

本誌「TSUNAGU」が 日本BtoB広告賞を受賞

「第35回 2014日本BtoB広告賞」(主催:一般社団法人日本BtoB広告協会)において、本誌「TSUNAGU」がPR誌の部で銅賞を受賞しました。この「BtoB広告賞」は、企業間広告の普及、振興を図ることを目的として、1980年から開催されている広告作品コンテストです。審査は、新聞広告、企業カタログなど、12の部門に分けて行われ、合計331点の応募がありました。

「TSUNAGU」は、当社とステークホルダーのみなさまをつなぐコミュニケーション・ツールとして2007年に創刊しました。今後も、紙の多様性や新たな可能性を伝えることを目的に、みなさまに愛される広報誌をめざしてまいります。これまでに発行した各号の詳細、最新号のお申し込みは、当社Webサイトにてご確認ください。

www.kppc.co.jp/tsunagu/index.html



大阪支店ビル全館に、 LED照明を導入

大阪支店ビルでは、照明設備の取り替え工事実施にあたり、省エネ性能の高いLED照明を全館に導入しました。LED照明は、蛍光灯に比べ省電力、長寿命、有害物質を含まないため廃棄が容易などのメリットがあり、当社では環境付加軽減への取り組みの一環として、今後も推進していく予定です。

8/6(水)~8(金)

EVENT

平成26年度 仙台七夕まつり

豪華にして絢爛な笹飾りが仙台市内を埋め尽くす、紙と竹の優美な祭典。その美景を楽しもうと、例年200万人もの観光客が訪れます。巨大な青竹に飾られた、色とりどりの短冊や吹流しが涼やかな風にたなびく姿は、えも言われぬ美しさです。



写真提供:仙台七夕まつり協賛会

DATA

- 会場:宮城県仙台市(市内全域、中央通り、一番町などの中心部)
- 料金:無料
- 問い合わせ:仙台七夕まつり協賛会(仙台商工会議所内)
- TEL:022-265-8185
- HP:www.sendaitanabata.com

6/23(月)~8/8(金)

EXHIBITION

KPP本社 七夕飾り

当社子会社の鳴海屋紙商事(株)制作による、“本物の”七夕飾りをKPP本社エントランスに展示。今年は創立90周年特別デザイン。また、各支店にはミニ七夕「浪漫竹」が飾られます。

DATA

- 会場:国際紙パルプ商事本社(東京都中央区明石町6-24)1Fエントランス
- 料金:無料
- 問い合わせ:国際紙パルプ商事 経営企画本部 CSR・広報課
- TEL:03-3542-4169
- HP:www.kppc.co.jp

7/9(水)~11(金)

EXHIBITION

第25回 国際文具・紙製品展 ISOT

世界中からさまざまな文具や紙製品が集まる、アジア最大級の展示会。当社はECサイト「PAPER MALL」のご紹介や「オフィスecom」の展示を行います。

DATA

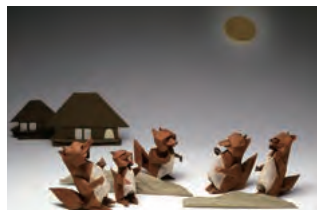
- 会場:東京ビッグサイト(東ホール)東京都江東区有明3-11-1
- 料金:無料(ただし、展示会招待券が必要)
- 問い合わせ:ISOT事務局
- TEL:03-3349-8505
- HP:www.isot.jp

7/12(土)~9/28(日)

EXHIBITION

一枚の紙から生まれる奇跡 吉澤章 創作折り紙の世界

世界的な創作折り紙作家、吉澤章氏の代表作品300点余を展示。90年の生涯をかけて育まれた豊かな表現、生命力を感じる作品の数々を堪能できます。また、7/26(土)には季節の動植物など独創的な折り紙を実際につくる「折り紙講座」も開催。



お月見



きりん

写真提供:朝日新聞社

DATA

- 会場:公益財団法人 佐野美術館 静岡県三島市中田町1-43
- 入館料:一般・大学生1,000円 小・中・高校生500円(折り紙講座は参加費1,500円・要申込)
- 毎週土曜日は小中学生無料
- 問い合わせ:佐野美術館
- TEL:055-975-7278
- HP:www.sanobi.or.jp

~8/31(日)

EXHIBITION

紙のおもちゃ

子どもの遊び道具として古くから親しまれている、凧・カルタ・すごろく・紙風船・紙人形といった、懐かしくて楽しい紙のおもちゃを集めた企画展。

DATA

- 会場:公益財団法人 紙の博物館 東京都北区王子1-1-3
- 入館料:大人300円、小中高生100円
- 問い合わせ:紙の博物館
- TEL:03-3916-2320
- HP:www.papermuseum.jp

7/19(土)

WORKSHOP

ヨシ紙作りワークショップ

湿地帯に多く群生する植物・ヨシを原料に、自然素材を使った紙づくりを体験できるイベント。実際に木枠で紙を漉きながら、紙のつくり方を学べます。

DATA

- 会場:佐川美術館 滋賀県守山市水保町北川2891
- 参加費:無料
- 問い合わせ:佐川美術館
- TEL:077-585-7800
- HP:www.sagawa-artmuseum.or.jp

※開館日、開館時間等は、各ホームページにてご確認ください。 ※イベント、展示は、諸事情により変更される場合があります。お出かけの際は、事前にホームページまたはお電話にてご確認ください。



この用紙は、責任ある森林管理に配慮しています。



輸送マイレージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。



針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

発行:経営企画本部 経営企画部 CSR・広報課
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL(03)3542-4111(代)

URL <http://www.kppc.co.jp/>